



# 英語の音を 聴くことが大切

ピーター・バラカン Peter Barakan

「日本人の英語はどう思いますか」不思議とよく聞かれることです。不思議というのは、つまり日本人全員に共通する英語の特徴があるはずはないからです。それぞれが個人ですから、当然能力も感性も千差万別でしょう。

しかし、多くの人の英語に大きな影響を及ぼす要素として、英語がカタカナで教えられることがあると思います。これによって英語を話すときの日本人の発音はわかりにくくなっていると言えます。ぼくが日本語を習い始めた大学一年生のことを思い出します。英語をカタカナに置き換える授業を受けましたが、先生は色々な英単語を並べて、ぼくらはそれをカタカナで書かなければならなかったのです。その一つは Oxford でした。ぼくは少し悩んだ末、最も近いと判断した「オクスフッド」と書いたのですが、これが間違っているとされたとき理解できませんでした。正解は「オクスフォード」だと？でも、それは英語の発音と明らかに違うではありませんか、と反論しても、日本語ではこう書くのだ、ときっぱり言い放たれてしまったのです。何となく嫌な予感がしました。

英語を話そうとする日本人が抱える問題はここに集約されているのだと思います。同じ東アジア人でも、中国人や韓国人が話す英語は、必ずしも発音がパーフェクトとはもちろん限りませんが、少なくとも日本人より英語発音に近い分、わかりやすいです。かれらの教育現場は全く知りませんが、ネイティブの英語発音で授業を受けているはずですよ。

ことばがコミュニケーションのためにあることは言うまでもありません。長年東京で暮らしているぼ

くは日本語を話しているときに英語の単語が出て、全て条件反射的に日本語発音で言います。そうしなければ何を言っているか誰にもわからないという極めて常識的なことですが、そういう発音ができることに感心してくれるかたがときどきいます。もちろん一定の努力が必要なことですが、そのぐらいのことはあたりまえだとぼくは思っています。

英語圏の人に通じる英語を話したい日本人に言いたいのは、音をよく聴いてください、ということです。日本で一般的に使われている英語の表記の大部分は間違っているのだから字面で判断すればまずいです。マス・メディアも含めてそうです。そしてその間違いを直そうとすると、相手が迷惑がるのが少なくありません。日本は日本の論理でけっこう、と言わんばかりの傲慢な印象を受けます。

最低でも、人の名前はちゃんと発音してほしいです。先日テニスの中継を観ていたら、セリーナ・ウィリアムズのことを現地のアナウンサーが英語で言っているにもかかわらず、日本側の解説者は頑なに「せれな」と呼んでいたのです。メディアの影響力が絶大なだけにこういうことはあってはならないと思います。そんなのはわからないというのも言いわけになりません。解決方法は簡単です。疑問があつたらネイティブ・スピーカーに聞けばいいです。

## ピーター・バラカン

ブロードキャスター。1951年英国ロンドン生まれ。ロンドン大学日本語学科を卒業。1974年来日。音楽関連の出版社勤務を経て、放送界に進出。以来、独自の選曲によるポピュラーミュージックの紹介者として活動。FM放送を中心に、数本のレギュラー番組で大活躍。